

# キャンパスの自然的環境の評価

——「学芸の森」の実態調査から——

齊藤 嵩之

(東京学芸大学環境教育研究センター)

## Evaluation of natural environment of university campus - based on a questionnaire to survey “Gakugeinomori” forest

Takayuki SAITO

Field Studies Institute for Environmental Education

本研究は東京学芸大学の自然的環境に着目し、大学で活動する様々な属性の人々が、キャンパスの自然的環境をどのように捉えているのか明らかにしようとするものである。

東京学芸大学のキャンパスはその豊かな自然的環境から「学芸の森」の愛称があり、大学のキャンパスとしては珍しい。しかし、これまでに自然的環境に関する全学的な調査は行われておらず、大学の構成員がどのように捉えているのかは不明である。

本研究ではこのようなキャンパスの自然的環境に着目し、自然が構成員にとってどのように捉えられ、機能しているのか検証を行った。また「学芸の森」は名前が先行し、活動や認知の現状などの実態が不鮮明である。「学芸の森」が構成員にどのように認識されているのかも検証した。

本研究は質問紙を用いて行った。結果、810

名から回答を得た。属性は、大学院生を含めた学生が46.8%、教員が21.1%、職員が25.6%、地域住民が6.5%となった。

調査の結果、キャンパスの自然的環境の印象として「心地良い」が52.3%、「落ち着く」が51.5%となり、安らげる印象を持つ言葉が構成員の半分以上から選ばれた(図1)。これは森が持つ印象と合致する。

また、自然的環境については「好き」や「良い」とする好感的な評価がされていることが明らかとなった(図2)。理想的な自然的環境については、学生に比べ教員、職員、地域住民から理想的であるとされた。教員、職員が大学での勤続年数が長いことや、他の大学のキャンパスを知っていることを考慮すると、学生の評価よりも現実的であると言える。

「学芸の森」については「名前は聞いたこと

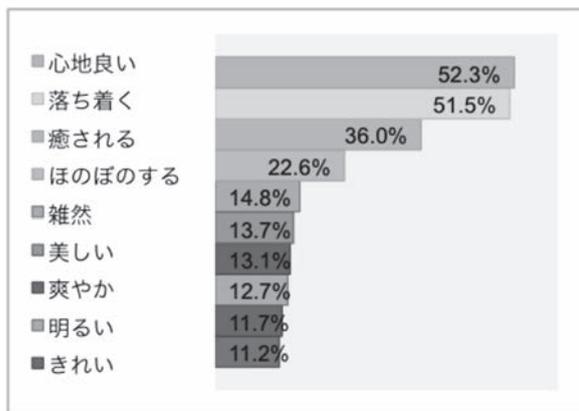


図1 キャンパスの自然に対する印象を選んでください(複数選択可)。

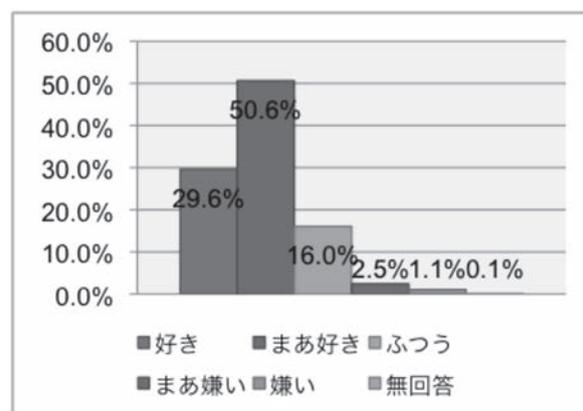


図2 キャンパスの環境は好きですか。

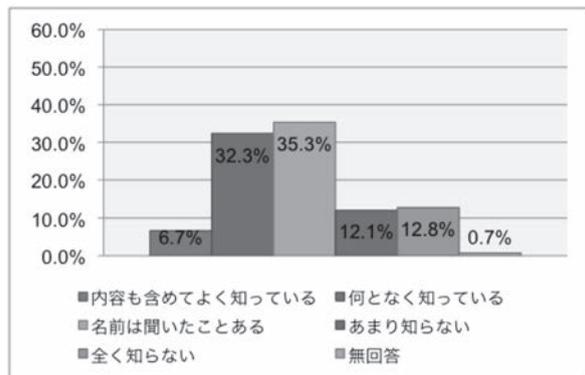


図3 「学芸の森」が何か知っていますか。

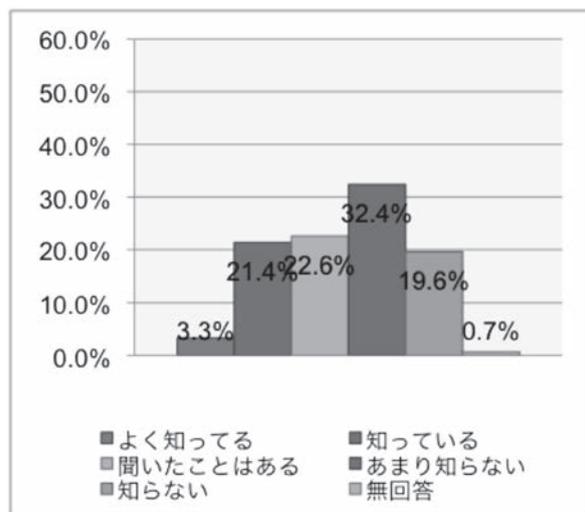


図4 「学芸の森」を良くするために、教職員、学生、地域住民と一緒に活動していることを知っていますか。

がある」が最も高く、活動に関しては「あまり知らない」が最も高い回答となった（図3、4）。キャンパスの自然的環境が好感的に評価され、自然が必要なものとして機能しているのに対し、「学芸の森」は知られていない現状が明らかとなった。しかし「学芸の森」の名前については、知らない人も「好き」や「適切」と考えていることが明らかとなった。

調査結果より、今後は「学芸の森」を共通認識として共有することが求められる。これまでのキャンパスの自然的環境としていた認識を「学芸の森」として集約し、共通認識を持って構成員一体の活動を行うことが必要である。